

## 12月15日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①プーチン氏、来年の大統領選に出馬表明 西側のウクライナ支援、9割近く減 (Sputnik, 2023年12月8日)

#### プーチン氏、大統領選出馬を表明

ロシアのプーチン大統領は 8 日、特別軍事作戦の英雄たちへの国家賞授与に合わせてクレムリンで行われた式典で、2024 年ロシア大統領選挙への出馬を表明した。

同日、露中央選挙管理委員会は大統領選挙の実施日を来年 3 月 15～17 日に決定したと発表した。

プーチン大統領は 2000 年、2004 年、2012 年、2018 年の大統領選挙に勝利し、4 期約 20 年にわたり大統領職を務めている。当選すれば 2030 年まで 6 年の任期を務める。

#### 西側によるウクライナ支援、87%減

2023 年 8 月から 10 月にかけて西側諸国がウクライナに供与した支援は 2022 年の同時期と比べて 9 割近く減少し、2022 年 1 月以来最低の支援額となった。独キール世界経済研究所の調査で明らかになった。

調査によると、西側によるウクライナへの資金供与は大幅に減少しており、2023 年 8 月から 10 月にかけてウクライナが受け取った資金は 21 億 1000 万ユーロで、これは 2022 年の同時期と比べて 87%減だという。金額自体、2022 年 1 月以来で最低水準となった。ウクライナに資金援助する 42 カ国中、過去 3 カ月間に新たな支援策に合意したのは 20 カ国。

同研究所によると、米国のさらなる支援が不透明であることから、ウクライナは EU がかねてから予告していた 500 億ユーロの支援策を最終決定することを願うほかないという。

EU は現在、今後 4 年間で 200 億ユーロの軍事支援で合意しようとしている。また、2027 年までマクロ金融支援を提供するため、さらに 500 億ユーロを確保する案が検討されている。ただし、これらの計画は現在、一部の EU 加盟国によって阻止されている。ハンガリーはウクライナがこれまで受け取った支援金の用途報告書を提出していないとし、追加援助をブロックしている。

#### バイデン大統領息子、2 億円の脱税で起訴



米国のジョー・バイデン大統領の息子ハンター氏は 7 日、2016～2020 年に計 140 万ドル(約 2 億円)の税金を支払わなかったとして、脱税の罪で起訴された。

検察は「被告は税金を払う代わりに贅沢な生活に大金を費やした」と指摘。公開された資料によると、ハンター氏は「女性」に 68 万ドル(9800 万円)、「大人の遊び」に 19 万ドル(2700 万円)を支払っていたことも明らかになった。

米メディアによると、今回の罪では最大で 17 年の禁固刑に処せられる可能性がある。また、ハンター氏はこれまでも拳銃を購入する際に麻薬に関する嘘のデータを提出したなどとして起訴されている。

## ②西側にはロシアは絶対に潰せない＝プーチン大統領(2023 年 12 月 10 日)

西側諸国がロシアを「押し戻し、弱体化させ、潰そう」としても、決して成功しない。プーチン大統領は、12 月 8 日の祖国英雄の日に金星勲章の授与後、このように語った。国営 TV 放送「ロシア1」のパーヴェル・ザルビン記者は 10 日、自身のテレグラム・チャンネルにプーチン大統領との対談の一部を公開している。

### プーチン大統領の声明の主旨

- ①ロシアの未来の多くは、特別軍事作戦での戦士らの戦闘にかかっている。
- ②大統領は編入された新地域の訪問を約束した。
- ③ロシア人はウクライナの固有の民族ではないと言い切ったウクライナ政権は「図々しいにもほどがある」。
- ④西側はロシアに害する相手であれば誰とでも組む。
- ⑤カナダ議会がナチス主義者に大喝采したことについてコメント。
- ⑥ウクライナには自国の基地、イデオロギー、産業、しかも資金がない。ということは未来がないということだ。



## ③【12 日のニュース】ガザ、人質解放に向けた再交渉の可能性 露南部でウクライナ軍のミサイル撃墜(Sputnik, 2023 年 12 月 12 日)

### ガザ、人質解放に向けた再交渉の可能性

パレスチナ・ガザ地区でイスラエルによる攻撃が続くなか、アラビア語国際放送「アル・アラビヤ」は、来週にもハマスとイスラエルの新たな人質交換に向けた交渉が始まる可能性があるとして

報じた。

ハマス側は完全な戦闘停止を求め、新たな人道的停戦への道を閉ざしていない。だが、交渉はまだ始まっておらず、実現するかどうかは不透明。

先月 24 日、紛争激化後初めてとなる一時的な戦闘休止が成立した。最大で 10 日間の停戦が見込まれていたが、今月 1 日には戦闘が再開。イスラエル軍はガザ南部にも作戦範囲を広げていた。

### 露南部でウクライナ軍のミサイル撃墜

ロシア国防省は 12 日、ウクライナと国境を接する南部ベルゴロド州で同日午前 5 時(日本時間午前 11 時)ごろ、ウクライナ軍の戦術ミサイルシステム「トーチカ U」の攻撃を阻止したと発表した。

同省によると、飛来したミサイルは対空防衛システムで撃墜された。住宅 7 棟のほか、電線が損傷するなどの被害が出た。

### ゼレンスキー氏訪米に野党、メディアは冷ややか



ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は 11 日、米国に到着した。12 日午後(日本時間 13 日早朝)にはジョー・バイデン大統領と会談するほか、議会を訪れ風前の灯火となっている支援の継続を訴える。

だが、最大の障壁となっている米野党・共和党が、ゼレンスキー大統領の訪米を機にウクライナ支援賛成に転じるかは不透明だ。

共和党・トランプ派の強硬派としてデイビッド・バンス上院議員は、ゼレンスキー大統領の訪米を「恥」と酷評。米納税者の 610 億ドルを要求しに来たのは「前代未聞の茶番劇だ」と批判した。同じく共和党のマイク・リー上院議員も「我々はゼレンスキーの指示通りには動かない」と明言している。

米国内の購読者も多い大手西側メディアも厳しい観測を示している。

フィナンシャル・タイムズは「ゼレンスキーの要求は支援反対に固執する共和党トランプ派に拒否されるリスクがある」。エコノミストも「米政権は大統領選を控えるなか、外国での紛争への出費に有権者の目が向くのを恐れている。さらに政府閉鎖回避のため、予算について野党と妥協する必要性もある」と政治的な背景を指摘した。

現時点では 15 日の会期末までに、下院ではウクライナ支援に関する議論は予定されていない。仮に共和党の妥協が得られても、審議が始まり成立するのは冬季休暇後の来年 1 月 9 日以降になる。

#### ④「議会は袋小路」 野党、西側メディアはゼレンスキー訪米を酷評(Sputnik, 2023年12月12日)

紛争激化以来、3度目の米国訪問をしたウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領。バイデン米大統領や議会に支援継続を訴えたが、野党・共和党の一部からは激しい反発を受けた。主要西側メディアも今回の訪米に冷ややかな反応をみせている。

2024年米大統領選・独立系候補のロバート・ケネディ・ジュニア氏は、ゼレンスキー大統領が米国防総省の防衛請負業者と会談したことに言及し、「ウクライナ紛争の利害関係者が誰であるかを誰も隠そうとしていない」と述べた。

「欺瞞は我々の目の前で起こっている。ウクライナ戦争の本当の利害関係者が誰であるか、誰も隠そうとしていない」

また、共和党強硬派として知られるマージョリー・テイラー・グリーン議員も、外国での戦争に夢中な飽くなき国防総省のせいで、米国はウクライナ紛争に巻き込まれている」と痛烈に批判した。

一方で大手西側メディアでは、ゼレンスキー大統領の訪米で共和党のウクライナ支援反対の姿勢が変わることはないとの論調が目立つ。

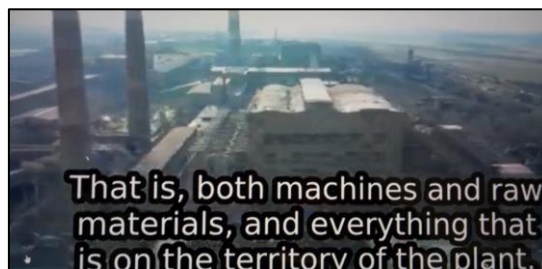
インデペンデント紙は「米議会は袋小路に入った。そしてゼレンスキーのドラマチックな呼びかけも状況を変えることにはならなかった」と指摘。タイム誌も「ゼレンスキーの米議会への影響力は、前回の訪問時と比べ大幅に低下した。また、米社会でのウクライナ支援への支持も著しく落ちた」とした。

ポリティコ誌も「バイデンはゼレンスキーに今後の支援について約束することができなかった。このことは、もはや米大統領は国際社会で思うがままに動けないことを示している」と八方塞がりとなったバイデン政権のウクライナ支援について論じている。

#### ⑥マリウポリの今(2023年12月14日)

地雷撤去後、アゾフスタル近隣の「イリイチ製鉄所工場」は3つの生産ラインを再稼働させた。すでに3,700人が生産に従事し、生産量の一部は企業の復旧に使用されている。

<https://twitter.com/i/status/1735110617235862002>



<https://twitter.com/tobimono2/status/1735110617235862002?s=09>

## ⑥【アメリカ・ウクライナ大統領会談】バイデン氏「ウクライナから背を向けることはない」(日テレ News、2023年12月12日)

バイデン大統領は 12 日、ゼレンスキー大統領と会談し、可能な限り軍事支援を続けると強調した上で、追加で 2 億ドル(=およそ 290 億円)の軍事支援を行うことを伝えました。

バイデン大統領「私もアメリカ国民もウクライナから背を向けることはない」

ゼレンスキー大統領「プーチンが何をしようとも、我々は自由のために戦う。彼は何一つ手にしていない」

バイデン政権は議会に対し、ウクライナ支援の予算が年内に枯渇するとして追加予算を求めています。野党・共和党は「予算はアメリカの国境警備に使うべきだ」と主張していて、成立する見通しが立っていません。

バイデン大統領は会見で、ウクライナ支援の予算が「急速に限界に近づいている」と訴えました。ゼレンスキー大統領も会談に先立ち、議会を訪問し、議員に直接、支援継続を訴えました。

しかし、共和党の上院トップは 12 日、予算案をクリスマス休暇前に可決するのは「事実上、不可能だ」と述べていて、ウクライナ支援の予算が枯渇する恐れが強まっています。

(2023 年 12 月 13 日放送)

<https://youtu.be/OHDjz6lrq0Y>



※ゼレンスキーに話すバイデンだが、メモを手にも余分なことを言わないように見える。

## ⑦「西側諸国は混乱している」ロシアの地政学的役割を制限し、経済を弱体化させることができなかつた=専門家(2023年12月12日)

ウクライナを巡る情勢は、#西側諸国 のいかなる国も予想していなかつた段階に入った。政治学者のアリ・シュクル氏が、スポーツニクに語った。

「当初、彼らは、#ロシア をすぐに疲弊させることができ、戦闘行為は長く続かないと考えていた。しかし、そうはいかなかつた。ロシアは戦争から利益を引き出し、戦略的主導権を握り、キエフ政権に対する自分たちの対応をそれぞれ慎重に検討した。

これが西側諸国で一種の混乱をつくり出した。西側諸国ではすでに #ゼレンスキー 氏を支持することによる疲労の明らかな兆候がみられている」



[https://twitter.com/sputnik\\_jp/status/1734568441250500861?s=09](https://twitter.com/sputnik_jp/status/1734568441250500861?s=09)

### ⑧バイデンはウクライナの勝利の可能性についてのジャーナリストの質問に笑った(2023年12月13日)

<https://twitter.com/i/status/1734845292573499790>

※投稿者弁:なんで笑っとん?

※この映像を見たツイッターのコメント:ウクライナって言葉と勝利って言葉が並ぶと、大体の人が笑う。

### ⑨ウクライナは実際に戦争に負けており、ゼレンスキー以外の全員が何らかの形でそれを認めているというのは本当だろうか?(2023年12月12日)

ジョン・ミアシャイマー教授:前線の状況は膠着状態に達しており、何も変わらないと主張する人は多い。これはウクライナからも西側諸国からも聞かれる事だが私はこの主張は間違っていると思う。

膠着状態ではなくパワーバランスはロシア側に傾いている。

損害の比率はロシア側に有利にあり、今後もロシア側に有利だろう。さらにロシア軍が領土を奪還している証拠もある

<https://twitter.com/i/status/1734587490961658042>

### ⑩ラブロフ露外相、上院で演説(速報、2023年12月13日)

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は 13 日、ロシア上院本会議で演説し、「BRICS の購買力平価 GDP は G7 のそれを超えている」と述べた。

※安齋コメント:購買力平価とは、為替相場は短期的にいろいろな要因で振れることがあっても、長期的には二国間の財・サービスの価格が均衡する水準に収束するという理論で、よく使われるのがマクドナルドのビッグマックの価格です。例えば日本で 360 円、米国で 4.7 ドルで売られているのであれば、そこから導かれるドル円の購買力平価は  $360 \div 4.7 = 76.59$  で、1 ドル = 76.59 円です。現在の 1 ドル = 145 円といった円相場は、極端に円安ということになります。

### ⑪「議会は袋小路」 西側メディア、ゼレンスキー訪米を酷評(2023年12月13日)

紛争激化以来、3 度目の米国訪問をしたウクライナのゼレンスキー大統領。バイデン米大統領

領や議会に支援継続を訴えたが、野党・共和党の一部からは激しい反発を受けた。主要西側メディアも今回の訪米に冷ややかな反応をみせている。

#### インデペンデント:

米議会は袋小路に入った。そして ゼレンスキー のドラマチックな呼びかけも状況を変えることにはならなかった。

#### タイム:

ゼレンスキーの米議会への影響力は、前回の訪問時と比べ大幅に低下した。また、米社会でのウクライナ支援への支持も著しく落ちた。

#### ニューヨーク・タイムズ:

今回、ゼレンスキーは冷淡な歓待を受けた。共和党議員の一部は、訪問の直前、ゼレンスキーが米国に来ることに不満を漏らしていた。

#### ハフポスト:

ジェームズ・バンス上院議員の意見によると、米議員らの感情を操作するために土壇場でゼレンスキーを投入するのはグロテスクだ。

#### ポリティコ:

バイデンはゼレンスキーに今後の支援について約束することができなかった。このことは、もはや米大統領は国際社会で思うがままに動けないことを示している。

※安齋注:1973年~74年にテレビ放映された「クレクレタコラ」という番組がありました。ゼレンスキーを見て、この番組を思い返すことがあります。主人公は公害によって怪獣化し陸に上がったフテクサレタコ。変身タコラの術で何にでも変身することができる。例え些細なものであろうが欲しいと思えば、どんな手を使っても手に入れようとするが、最後は取られた相手から強烈な仕返しをされることが多い。俳優ゼレンスキーの国家運営は大丈夫か？

## ⑫ウクライナ紛争を必要としているのは誰なのか、もはや誰も隠していない＝ケネディ・ジュニア氏(2023年12月13日)

2024 年米大統領選・独立系候補のロバート・ケネディ・ジュニア氏は、ゼレンスキー大統領の訪米についてコメントし、ウクライナ紛争の利害関係者が誰であるかを誰も隠そうとしないと言った。

ケネディ氏は、SNS・X のゼレンスキー氏の投稿から、ゼレンスキー氏が米国の防衛産業の関係者に囲まれている様子を捉えた動画を引用した。ケネディ氏によれば、ゼレンスキー氏は訪米中、「文字通り(国防総省の)防衛請負業者と会談していた。」

「欺瞞は我々の目の前で起こっている。ウクライナ戦争の本当の利害関係者が誰であるか、誰も隠そうとしない」

ケネディ氏はまた、もし本当にウクライナで防衛戦争が起きているなら、米国は 2022 年 4

月にウクライナ・ロシア間の「ボリス・ジョンソン(元英国首相)氏を派遣して暫定和平合意を断念させたかどうか」と疑問を呈した。ただし、ケネディ氏はこれが具体的に何を意味しているのかは説明しなかった。

これより前、ウクライナの与党幹部は、戦闘行為は2022年春に終結する可能性があったが、ジョンソン英元首相がロシアとの和睦を思いとどまらせたと明らかにした。

※安齋注:この問題について『安齋育郎のウクライナ戦争論』改訂第8版の30頁～31頁には、次のような解説があります。なお、『ウクライナ戦争論』の普及は9000部に近づいているようです。

こうして和平への努力が続けられていたにもかかわらず、2022年3月末を機に、ウクライナは「和平路線」から「主戦論」に転換し、ゼレンスキー大統領も「戦場での勝利を！武器支援を！」と声高に叫ぶ「戦う大統領」に変身し、西側諸国は同大統領を「英雄」に祭り上げました。そして起こったのが、あの「ブチャの大虐殺」や「クラマトルスク駅砲撃事件」や「ロシア兵集団レイプ事件」でした。それらの報道が如何にウソに満ちていたかは、次節で詳しく解説しましょう。

情報筋によれば、2022年4月9日にウクライナを電撃訪問したイギリスのボリス・ジョンソン首相(当時)こそ、戦争を継続させようとする米英の方針を確定させるためのメッセンジャーだったのでしょう。ジョンソン首相は、120台の装甲車と対艦ミサイル・システムの提供などの軍事支援や、世界銀行を通じた3億8,500万ポンド(約630億円)の保証の提供など、「和平への道」ではなく、「戦争継続へのレール」を敷きました。そして、ウクライナ戦争は長い長い軍事衝突に突き進んでいきました。